

ユニセフ（国際連合児童基金）は、子どもたちの命と健康を守るために、世界150以上の国と地域で活動する国連機関です。世界のすべての子どもたちが、十分なケアを受けながら心身ともに健やかに成長できるよう、保健、栄養、水と衛生、教育などの支援事業を行っています。迅速な緊急支援活動も重要な活動です。

1. 子どもの命と成長、そして未来を守る・・・主に予防可能な原因で命を失う5歳未満の子ども、年間590万人
2. すべての子どもに教育を・・・・・・・・・・初等教育さえ受けられない子ども、5,700万人
3. エイズと闘う・・・・・・・・・・エイズで親を亡くした子ども、1,330万人
4. 暴力、搾取、虐待から子どもを守る・・・厳しい労働に苦しむ子ども、1億6,800万人
5. 子どもの権利を実現するための政策の実現やパートナーシップの構築・・・各国政府への働きかけを行います



早川千晶さんからのメッセージ・・・・・・・・

ケニアにキベラスラムという東アフリカ最大のスラム街があります。地方での生活が困難になった貧困者が、出稼ぎにきて住み着いた貧しい町です。人口100万人とも200万人とも言われるこのスラム街の人口の約半分以上が子どもです。貧困者の命は短く、貧しさゆえに働き続け、病気になっても満足に医療を受ける機会もない低賃金労働者たちは病に倒れ、30代、40代で多くの人々が亡くなっていきます。そしてスラムに取り残される孤児が増え続けています。そんな孤児の子どもたちや、家や家族を失った浮浪児、踏みにじられた子どもたちを救済する寺小屋「マゴソスクール」があります。ここは、スラム住民で自らも孤児であったリリアン・ワガラが孤児を20名引き取り、1999年に始めた学校です。そこにケニア在住の日本人・早川千晶が手をつなぎ、今では600名を超える大家族になっています。貧しさのどん底の、生と死のギリギリの境界線で、生きることを願い希望を失わずに生き抜いてきた子どもたちと、そんな子どもたちを救済するスラム住民たち。子どもたちに希望を与え、未来に向かって歩いていく勇気を与えているマゴソスクールの教員2名（ダン校長、オギラ教頭）が来日し、さまざまなエピソードや夢を語ります。その2人のケニア人と、彼らを支える日本人の早川千晶と大西匡哉が映像を交え、ともに語り歌います。キベラスラムから命の響きを伝える歌をお届けします。

～ 早川千晶さん プロフィール ～

世界放浪の旅の後、ケニアに定住。ナイロビ最大級のスラム・キベラで、孤児・ストリートチルドレン・貧困児童のための駆け込み寺・マゴソスクールを、海岸地方ミリティーニ村にジュンバ・ラ・ワトト（子どもの家）を運営している。スラム住民の生活向上、マサイ民族のコミュニティとともに行うエコツアー、大自然体験キャンプ、フェアトレード活動、CD制作などを手がけている。著書に、「アフリカ日和」（旅行人）、「輝きがある。～世界の笑顔に出会う瞬間（とき）」（出版文化社）。1999年から日本全国各地でアフリカトーク&ライブのツアーを展開している。2015年度第5回賀川豊彦賞受賞。

お申し込みはファックス・電話・メールにてお願いします。
定員になり次第締め切ります。
お申し込みの受付後に、「参加券」をお送りいたしますので、当日会場にお持ちください。

- ◆E-mail アドレス：sn.municef_miyagi@todock.jp
- ◆電話：022-218-5358 080-5849-6072

開催会場は・・・・

仙台市戦災復興記念館 記念ホール（200名）

仙台市青葉区大町2-12-1 Tel 022-263-6931

地下鉄南北線「広瀬通駅」西4番出口より徒歩10分

地下鉄東西線「大町西公園駅」東1番出口より徒歩5分

◇◆◇ 公共交通機関でおいでください ◇◆◇

6/3 ユニセフのつどい 2017 参加申し込み FAX 022-218-3663

お名前 _____ 参加人数 _____ 名

ご住所 〒 _____

電話 _____ 切り離さずこのままファックス送信してください

ご記入の情報は「ユニセフのつどい」参加者把握のために使用します